

指定管理者の期末モニタリング

施設名	宮代町立コミュニティセンター進修館及びスキップ広場	年度	令和5年度
指定管理者	NPO法人 MCAサポートセンター	担当課	町民生活課
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	期別	第3期
施設の目的	進修館は、市民活動や地域活動の拠点として、文化・芸術、コミュニティ活動を通じた町民の交流を深め、地域コミュニティの推進を図ることを目的とする。 また、スキップ広場は地域住民の憩いと活動の場を提供することによって、宮代らしい賑わいと魅力を創出し、もって地域の活性化を図ることを目的とする。		
業務の内容	(1)施設の運営に関すること。 (2)施設、設備及び物品の維持管理に関すること。 (3)施設の利用許可、変更及び利用の取消し、制限等に関すること。 (4)施設の利用料金の收受、免除及び返還等に関すること。 (5)市民活動の支援に関すること。 (6)施設の設置目的にあった自主事業の実施に関すること。 (7)その他施設の目的を達成するために必要なこと。		

総合的な評価	
【総合評価】	A優良 0 B適正 14 C改善 0
<p>当該施設の目的に沿った事業計画書を作成し、計画に基づき適正に管理運営されていた。</p> <p>事業計画書に基づき、日本工業大学や市民活動団体と協力することで様々な事業を実施し、市民活動の活性化を図るとともに新たな利用者の発掘にもつながった。また、事業計画を再考する必要が生じた場合については、遅れることなく町へ報告、相談するなど、連絡調整も適切に対応していた。</p> <p>第5次宮代町総合計画前期実行計画の進修館オープンカレッジについては、町と共催事業のため、事前調整会議により役割分担を明確にして実施したことで、適切に事業運営ができた。</p> <p>大学連携では、日本工業大学の複数の学部、教授、研究室と連携事業を展開し、相互にメリットを共有することで今後の連携関係を創出していた。</p>	
【評価事項】	<p>自主事業では、進修館だよりをメインツールとして、地区・自治会への訪問やインタビューなどのアウトリーチ事業を実施し、地域コミュニティの活性化を図る取り組みを実施していた。(和戸宿集会所サロン事業立上げ)</p> <p>公共施設予約システム導入について、他の公共施設と違い、既存のシステムからの入替えであったが、適切に対応したことで、利用者の理解を得ながらスムーズに導入できていた。</p> <p>進修館の建物としての価値や長寿命化に向けた調査など、大学連携から協力を得て実施していた。(コンクリート建築の劣化等の調査)</p>
【改善事項】	引き続き利用者ニーズの把握、さらなる利用者満足度の向上に努め、事業を展開されるよう期待する。

1. 施設の管理運営・事業	評価	B 適正
<p>新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、徐々に通常利用に戻りつつ、一時ワクチン接種会場となる影響の中、業務要求水準書・事業計画書に基づき適切に管理運営業務を実施していた。</p> <p>R4-R5 進修館及びスキップ広場利用者数 64,978人(前年53,160人)前年比+11,818人</p>		
2. 利用者の公平確保	評価	B 適正
<p>施設の貸出及び利用料金の徴収、免除申請等は条例及び施行規則に基づき、公平かつ適正に行われていた。</p>		
3. 職員の配置、研修等	評価	B 適正
<p>事業計画書に基づき適正な人員配置及び専門スタッフを配置し、事業を行っていた。また、個別にスタッフ面談を実施し、業務に対する動機付けとスキルアップを図り、サービス向上に努めていた。</p>		
4. 施設の維持管理業務(清掃、植栽管理など)及び保守点検	評価	B 適正
<p>清掃及び設備保守点検を事業計画書に基づき適切に実施し、機能・安全面を確認する等、施設の維持管理業務を適正に行っていた。また、利用者に対する配慮にも迅速に対応していた。</p>		

5. 施設の修繕	評価	B 適正
<p>利用料金収入の増額により、町と協議の上、利用者ニーズも踏まえた施設修繕や備品購入などを実施していた。</p> <p>特に、館内への出入口や各室の出入口の段差の解消(バリアフリー化)を図り、利用者の利便性が向上した。</p>		
6. 備品管理	評価	B 適正
<p>備品管理台帳において備品の増減等、適切に管理していた。</p>		
7. 安全・危機管理	評価	B 適正
<p>緊急対策マニュアルに基づき、管理責任者を中心に災害発生時の避難訓練などを行い、安全の確保のための避難経路の確認や危機管理に対するスタッフ研修を実施していた。</p>		
8. 個人情報の管理	評価	B 適正
<p>個人情報保護法に準じたマニュアルを整備するとともに、スタッフ会議及び研修を実施し、個人情報の管理を徹底していた。</p>		
9. 利用者ニーズの把握・反映	評価	B 適正
<p>昨年度に引き続き、進修館だよりの配布をきっかけにアウトリーチとして自治会や町内外の事業者への訪問活動を実施し、進修館に対するニーズや感想などを聴取していた。</p> <p>町内の地区・自治会配布先41地区。</p>		
10. 自主事業の実施	評価	B 適正
<p>事業計画書に基づく自主事業について、新たにコミュニティ事業部を創設し、地域コミュニティの活性化のため、進修館だよりの配布、配架やアウトリーチ(屋外活動)事業を展開していた。</p> <p>「進修館だよりのリニューアルにより、カラー刷りにして紙面を増やすなどの工夫により、配布希望自治会数や町内外の企業・団体数も伸びている状況が見えた。</p> <p>この進修館だよりの配布時に広報活動と情報交換のために地区・自治会長宅を訪問し、課題として聞こえてきた声を特集として掲載することで、地区・自治会長から一定の評価を受けていた。</p> <p>また、令和4年度から交流を始めた沖縄県今帰仁村の情報を、進修館だよりの8月号から「今帰仁村だよりの」として掲載をスタートし、象設計集団が設計した公民館を中心にまちづくりの様子を紹介していた。</p> <p>集会所におけるサロン開催事業については、和戸町内会にて開催し、来年度も継続して開催していくことで、サロンの定着を実現していた。</p> <p>「進修館ファンクラブ」では、ファンクラブのつどいを開催し、つどいの中で建設当時現場監督をしていた西尾貞臣氏から大ホールの緞帳原図を町に贈呈する式典を行っていた。</p> <p>第5次宮代町総合計画前期実行計画事業「進修館オープンカレッジ」では、第4弾「スキップ広場に賑わいを！」、第5弾「進修館をアートで彩る」をスタートし、継続的に実施していくこととなった。</p> <p>共催事業としては、進修館を活用した提案型の共催事業を公募し、いくつかの主体と様々な共催事業を展開していた。(みやしろおひな祭り、キャンドルナイト、へそたんけん@進修館2024、カンパニー・ヒュッゲ、みんなのはらっぱ「進修館で遊ぼう」、バリアフリー演劇、進修太鼓体験会、出張！ワークショップアラカルト)</p> <p>大学連携では、進修館ラボや動画制作、コンクリート躯体調査、アーカイブ管理システムの共同開発等の様々な連携事業を展開し、日本工業大学とのネットワークを構築していた。</p>		
11. 経費節減	評価	B 適正
<p>清掃等は再委託せず、清掃スタッフにより業務を実施することでコストの削減に努めていた。</p> <p>また、施設設備の応急修繕について、専任サポートスタッフ等が実施することにより、コスト軽減を図っていた。</p>		
12. 環境への配慮	評価	B 適正
<p>館内の照明機器のLED化や環境に配慮した物品購入を実施していた。</p>		
13. 利用者への情報提供	評価	B 適正
<p>X(旧twitter)やFacebookなどSNSを活用した情報発信により、施設のPRや利用促進を図っていた。</p>		
14. 会計管理	評価	B 適正
<p>経理担当スタッフを配置し、指定管理業務経費及びその他の経費、団体運営経費を区分して適正に管理していた。</p> <p>ワクチン接種会場利用で増額となった施設利用料金について、町と協議の上、バリアフリー化や公共施設予約システム導入に伴うHPのリニューアルなどを実施し、適切に管理していた。</p>		